2023 年度 一般社団法人日本社会福祉学会 事業計画

一般社団法人日本社会福祉学会は、定款に定められた公益目的を達成するため、2023 年度は下記の事業を行う。また 2020 年度より、学会が保有している余剰資金を用いて、本部事業内に使途を明確に定めた「特定資産」を設置し、①日本社会福祉学会フォーラムの開催、②創立 70 周年に向けた学会資料のアーカイブ化、③初期キャリアにある研究者、女性研究者、シニア研究者等への支援に向けた調査・検討、という 3 つの事業のための運用を行っている。2024 年度までの 5 年間の運用予定で、2023 年度はその総括に向けた充実期となるよう各事業を推進していきたい。

記

１．学術研究集会・講演会等の開催について

社会福祉学の研究成果の発表・知識の交換を行うために、下記の事業を推進する。

１） 第 71 回春季大会・秋季大会について

①学会本部企画シンポジウムを中心とした「春季大会」

テーマ：「揺らぐ家族と社会福祉―子どもが育つ環境をどうつくるか」

開催年月日：2023 年 5 月 28 日（日）

開催会場　：東洋大学白山キャンパス

②会員の研究発表を中心にシンポジウムやワークショップも開催する「秋季大会」

テーマ：「世界の幸せをカタチにする社会福祉学の挑戦」

開催年月日：2023 年 10 月 14 日（土）～15 日（日）

開催会場　：武蔵野大学（武蔵野キャンパス）

２）各地域ブロック研究大会について

各地域ブロックの「研究集会」等を支援し、地域ブロックの研究活動の活性化を図ると同時に各地域の学術振興に寄与する。

３）日本社会福祉学会フォーラムについて【特定資産対象事業】

会員および一般住民の関心なども踏まえながら、担当地域ブロックと連携し、学術フォーラムを開催し、地域における社会福祉学の普及・推進を図る。学会の社会貢献的な意味合いを持ち、各地域の福祉現場とつながる企画内容とする。

2023 年度は北海道地域ブロックにより開催をする。

２．学会誌の刊行について

会員の研究成果を国内外に公表するために、下記の事業を推進し、研究成果の普及に努める。

１）学会誌『社会福祉学』第 64 巻 1 号~4 号の刊行

２）英文誌『Japanese Journal of Social Welfare』（第 64 巻 5 号）を電子ジャーナル中心に刊行

３．研究の奨励・研究業績の表彰について

会員の研究水準の一層の発展を図るために、学会賞事業を推進すると共に、若手研究者の育成に努める。

４．関連学術団体との連携について

従前通り、関連学術団体との連携を図る。「日本社会福祉系学会連合」、「社会政策関連学会協議会」、「社会学系コンソーシアム」、「ソーシャルケアサービス研究協議会」、「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」などの活動を支援すると共に、本学会の研究水準向上に努める。

５．国際交流および研究協力の推進について

１）日中韓国際シンポジウムの開催

2023 年度は日本が幹事国の年度なので、武蔵野大学（武蔵野キャンパス）で開催される第 71 回秋季大会期間中に、日中韓三か国学術交流「覚書」に基づいた日中韓国際シンポジウムを開催する。

２）韓国、中国との連携および学術交流推進事業の実施（自由研究発表など）

韓国・中国との学術交流のあり方を改めて検討し、交流推進事業を実施する。

日本社会福祉学会第 71 回秋季大会に参加する韓国社会福祉学会、中国社会学社会福祉専門研究委員会の報告者を募集し、両国からの受け入れ体制を整える。

韓国社会福祉学会で自由研究発表を希望する会員の報告内容を精査し、韓国に派遣する。

中国社会学会社会福祉専門研究委員会で自由研究発表を希望する会員の報告内容を精査し、中国に派遣する。

３）留学生会員の育成に向けた事業実施（ワークショップの開催）

在日の留学生会員を対象とした「留学生と国際比較研究のためのワークショップ」を企画し、第 71 回秋季大会期間中に開催する。

４）欧米諸国との連携および学術交流（海外在住会員または研究者からのリレーレポート）

海外在住の会員または欧米諸国を研究対象としている会員から、当該国あるいは地域の社会福祉学研究の動向を紹介してもらい、学会ホームページに掲載し、発信する。

６．広報活動について

１）「学会ニュース」の発行（2 月、6 月、10 月の年 3 回の発行を予定）

①広報委員会で決定したクローズアップコーナーのテーマに合せた、的確な人選を行い、会員のニーズに応えるべく、本シリーズをより充実させたコラムを掲載する。

②前年度に引き続き、地域の学会活動の動向を広報することを目的とした「地域ブロック紹介」を充実させる。

２）「広報委員会だより」の配信（年 5～6 回の一斉メール送信）

①当学会の動向、必要な情報、ニュースの配信を充実させる。

３）学会ホームページの充実化を図る

①韓国語、中国語、英語のホームページの充実

英語・韓国語・中国語のホームページに「学会ニュース」と「広報だより」の記事の中で、外国版ホームページに掲載すべきものを広報委員で検討し、各翻訳チームに翻訳を依頼。それぞれの言語に翻訳されたものをアップロードする。

②学会ホームページのコンテンツやデザインのさらなる充実

③国際学術交流促進委員会と連携を図りながらホームページで情報発信

④韓国の社会福祉学会ホームページに翻訳した本学会の内容の掲載

4）学会公式 Twitter の運営

①広報委員会、大会運営委員会、研究支援委員会、事務局（総務担当理事）と分担して、Twitter の情報を更新

②更新内容は原則、学会ホームページに掲載済の内容の紹介とし、投稿自動化ツールを導入

7．研究倫理について

1）研究倫理問題への迅速な対応

研究倫理規程に対する違反行為への申立てがあった場合、速やかに対応できるよう、研究倫理委員間の連絡、委員会の場の設定、委員会の開催方法などについて事前に確認し、体制を整備しておく。また、実際に申立てがあった場合に、調査および処分に関する規程のスキームに基づいて適切に対応できるよう、調査および処分規程、研究倫理規程にもとづく研究ガイドラインなど研究倫理委員で確認し、理解しておく。

2）研究倫理問に対する対応の検証

大会の分科会報告等で倫理問題事案が生じた場合、当該事案が生じた要因および対応方法などについて検証を行う。

8．学会資料のアーカイブ化について【特定資産対象事業】

1）2023 年度の具体的な取り組み（学会 70 周年に向けた取り組みとしても実施）

①『学会誌』の継続的デジタル保存化（継続事業）

②『大会要旨集』（冊子版）（CD-R 版）の購入（新規）とデジタル化の業者委託（新規）

③国際文献社に保管の段ボール箱の内容確認のための倉庫からの取り出し（継続）

④「学会ニュース」のデジタル化（継続）

⑤各ブロックにおける部会誌やニュースレター、部会大会記録等のアーカイブズ化の検討（継続）

⑥名誉会員インタビュー企画の検討（継続）

9．研究者への支援について【特定資産対象事業】

1）第 71 回（2023 年度）秋季大会における「スタートアップ・シンポジウム」の企画・実施

・初期キャリア研究者対象に 2022 年度に実施したニーズ調査結果の報告とそれをふまえた検討を行う

2）CS-NET の運営

・サロン企画やメーリングリストの運営を継続し、更なる充実を図る

3）研究支援に関する情報発信

・学会ニュース・ホームページへのリレーエッセイの掲載を継続する

・日本社会福祉学会ホームページの研究支援委員会の部屋における CS-NET 等の活動報告等を充実させる

4）初期キャリア研究者の学会への要望の把握

・ニーズ調査、リレーエッセイ、サロン等で収集された初期キャリア研究者の学会への要望に関するデータを分析し、新たな活動につなげる 5）研究支援に関する情報発信

5）人文社会科学系学協会男女共同参画推進部会(GEAHSS)への参画

・GEAHSS の運営委員会に参加し、会員に周知する

１０．各地域ブロックへの支援について

「地域ブロック助成金配分基準」に基づいて助成する共に、各地域ブロック事業計画を尊重し、「地域ブロック担当者委員会」を通じて、地域ブロック事業を支援する。

１１．総会・理事会活動について

「定時社員総会」を 5 月 28 日に東洋大学白山キャンパスにて開催する。学会運営を円滑に遂行するため「理事会」を開催する。

１２．運営委員会の活動について

事務局業務の全面委託を受けて、新たな体制での事務局業務の円滑な実施をすすめ、安定した学会運営を実現するため「運営委員会」を開催する。

１３．委員会活動について

上記の諸事業計画を推進するために、役員会を中心に下記の常設委員会および地域ブロックと連携し、学会運営に当たる。

常設委員会：研究委員会・全国大会運営委員会・学会賞審査委員会・研究倫理委員会・国際学術交流促進委員会・機関誌編集委員会・広報委員会・アーカイブ化推進委員会・研究支援委員会・地域ブロック担当者委員会（地域部会委員会）

各地域ブロック事業概要

1．主たる事業

1）北海道：①機関誌『北海道社会福祉研究』の発行 ②研究大会・総会の開催 ③研究会の開催 ④ニュースレターの発行　⑤理事会（運営委員会）の開催

2）東　北：①東北部会委員会（幹事・監事会）の開催 ②研究大会開催 ③研究誌『東北の社会福祉研究第 19 号』の発行 ④ニュースレターの発行

3）関　東：①運営委員会、その他各委員会活動の実施・運営 ②研究大会の開催 ③関東地域ブロック独自の奨励賞の審査、表彰 ④機関誌『社会福祉学評論』の発行 ④ホームページ、メールマガジン等による情報発信

4）中　部：①研究例会開催 ②機関誌『中部社会福祉学研究』第 14 号の刊行 ③「院生・若手研究者のための勉強会」の開催

5）関　西：①理事会の開催 ②若手研究者・院生情報交流会開催 ③年次大会・総会の開催 ④ニュースの発行（メール配信）⑤機関誌『関西社会福祉研究』第 10 号の発行

6）中国四国：①ブロック委員会開催 ②ブロック大会開催 ③総会開催 ④活動の広報 ⑤機関誌『中国・四国社会福祉研究』第 11 号刊行　⑥会員連携の共同研究の実施

7）九　州：①研究大会第 64 回の開催 ②機関誌『九州社会福祉学』第 20 号の刊行 ③総会の開催 ④運営委員会の開催

2．地域ブロック大会・研究会等活動　※新型コロナウイルス感染症の影響により変更の可能性あり

地域名	開催月日	開催場所	備考
北海道	2023 年 5 月	未定	シンポジウムを年 1 回、研究会を年 3 回
東北	2023 年 7 月	医療創生大学（福島県）	
関東	2024 年 3 月頃	未定	
中部	2023 年 4 月 22 日	ウインクあいち（愛知県）	院生・若手研究者のための勉強会を開催
関西	2024 年 2～3 月頃	未定	若手研究者・院生情報交流会年 3 回開催
中国･四国	2023 年 7 月 8 日	島根大学（島根県）	
九州	2023 年 7 月	筑紫女学園大学（福岡県）	

3．機関誌刊行・広報活動

地域名	機関誌刊行	広報活動
北海道	年 1 回（2024 年 3 月）	ニュースレター 年 4 回
東北	年 1 回	ニュース 年 2 回（2023 年 5 月頃、2024 年 2 月頃）
関東	年 1 回	メールマガジン年数回
中部	年 1 回	
関西	年 1 回（2024 年 3 月）	ニュース 随時
中国･四国	年 1 回（2023 年 9 月）	会報 年数回（定期年 2 回）
九州	年 1 回（2024 年 3 月）	

以 上